

令和8年度 警防技術練成会 表彰式

令和8年7月1日、令和8年度警防技術練成会の表彰式が行われました。

最優秀1署、優秀2署に加え、今年度より設けられた安全対策担当部長賞の3署に表彰状が授与されました。8月号の最優秀・住吉消防署につづき、優秀の2署及び安全対策担当部長賞の3署を紹介します。

水上消防署



今回の優秀賞受賞は、隊員一人ひとりが変更点を理解し、訓練を積み重ねた成果です。

屋内進入要領の変更には安全確認と声かけの徹底で対応し、ペア活動では相互補完と状況共有を重視しました。

また、審査基準の変更を踏まえ、タイム重視ではなく、確実性・安全性・連携の質を最優先に訓練を組み立てました。今後は、ペアでの判断と行動の統一、基本手順の確実な遂行を重視し、現場活動を実施します。

西消防署



活動要領の変更点の習熟を図りつつも、予定調和な指示命令や行動にならないよう実災害同様に目の前の事象に丁寧に対応することを心掛けて、訓練を行いました。

今後はペア間の相互監視・情報伝達、危険兆候の早期察知、状況に応じた進入中止判断などを現場に活かしていきます。

最後に、審査基準の見直しなど大きな変更を伴う中、入念な準備により、学びの多い指導会となったことを感謝申し上げます。

安全対策担当部長賞の新設にあたって…

昨年の殉職事案を重く受け止め、今年度の警防技術練成会は「第1回安全活動技術指導会」という副題のもと、安全活動と基本技術の徹底を追求する場となりました。

本主旨に基づき、隊員の安全管理技術向上をさらに促進するため本賞を創設し、隊員個々の基本動作や安全管理技術の徹底を評価することで、安全活動技術に卓越した署を表彰することとしました。

浪速消防署



安全管理を最優先とし、安全評価の実施、退路の確保、進入・退出報告の遵守を重点に、直近・中継隊が連携し、活動状況を相互に確認しながらペア活動を行うことを心掛けました。

また指揮本部は各隊からの情報を集約し、状況の変化に応じて活動方針や安全管理上の注意点を明確に指示し、統制のとれた部隊指揮がとれるように取り組みました。今後の活動においても、安全管理やペア活動を徹底し、全隊員が「安全に、安心して活動できる」現場活動を目指します。

住之江消防署



訓練では、新出場体制の知見を深めることを目的に、「基本の徹底」と「直近隊・中継隊の確実な連携」を柱として、指揮班は安全管理を最優先としました。毎回の事前ミーティングで意思統一を図り、手順を省かず、声かけ・指差し確認を徹底するなど、基本動作から安全を確保しました。今回得た安全意識の向上を住之江消防署全体へ展開し、現場活動はもちろん、平素の警防訓練においても確実な安全行動を徹底します。

東住吉消防署



訓練実施にあたり、特に心がけた点は、新安全管理体制の習熟はもとより、訓練隊員個人の安全管理意識の向上を主眼に訓練に取り組んだ点です。

今回の訓練により、新安全管理体制を適切に活用できる能力を身に着けましたが、「即消こそ安全」の想いもあります。今後は、安全・確実・さらに迅速を追求し、培った安全管理能力及び情報伝達能力を発揮し、安全に、そして安心して活動できる部隊運用に努めます。

優秀

安全対策担当部長賞

今回のテーマは「水難救助」

(都島DR (水難特別救助隊))

このコーナーでは、「安全文化の醸成と安全管理の徹底」を図ることを目的に、消火・救助・救急など過去の負傷事例を振り返り、事例からの学びについて紹介していきます。ここで紹介する内容が、皆さんの日々の活動に役立ち、プロフェッショナルとしての安全意識をさらに高める一助となることを願っています。

水の都・大阪市では、河川や運河などの水辺が身近にあり、毎年100件前後の水難事故が発生しています。

今回は、水難救助現場での事故事例と対策について紹介します。

事例紹介

水面や水中では、その特殊な環境のため、訓練時や現場活動の際にも、消防やその他機関においてこれまで数多くの事故が発生しています。

右図は、過去15年以内の消防・その他機関で発生した事故について一部抜粋したものです。

他本部の事例ではありますが、深夜の水難救助現場において、水底に沈んでいた車両の検索を行っていた隊員1名が車両の下敷きになり、意識不明の重体となった事例を紹介します。この事故は、水中での活動中に、他の隊員とはぐれた隊員が検索を行っていた際に発生しました。

場所	状況	救出後の状態
プール	訓練中	死亡
海域	訓練中	死亡
訓練水槽	訓練中	死亡
プール	訓練中	死亡
海域	災害現場	意識不明

水中での水難救助活動は会話が困難、水流に影響を受ける、身動きが取りづらいなどの特性があります。そのような特性に対応するため、大阪市消防局では水中でのトラブル対応訓練を含む潜水基本技術訓練を実施し、以下のように水難救助現場での安全を確保しながら活動しています。

潜水活動	無視界 (視界 0 m)	検索ロープ上で隊員の手が触れ合う状態で活動
	有視界	隣の隊員が見える状態で活動

万が一
この状態が
失われたら

はぐれた可能性を考え、検索ロープで止まれのロープ合図(3回)をだし、付近の検索を実施。見つからない場合は小隊長との情報共有を行うため、一旦、水面に全員で浮上。検索は一旦中止。

発生原因

今回の事故は、隊員1名が他の隊員とはぐれ、その後起きたトラブルへの対応策を実施できなかった、さらに、お互いの安全を確保しながら活動するバディの関係が機能していなかったために発生した可能性が考えられます。

想定される対応策

- ・隊員がはぐれた可能性を感じたら、活動を中止し、付近を検索。その後、一旦、全員で浮上。
- ・バディブリージング(1つのレギュレーターを交互に使う呼吸を維持する手技)。
- ・車両検索では1人は車両の動向を監視し、1人は検索中のバディの安全を確保。車両に動きがあれば水中ブザーより警報音をならし退避を促す。

再発防止に向けて

バディとは、2人1組で活動し、「潜水前の装備確認」「潜水中の隊員相互による挙動の確認」「隊員どうしのトラブルの解除」等を役割とします。その意義の再認識と安全管理の徹底を事故の再発防止へつなげるために、潜水基本技術訓練への継続した取組が重要です。

水難救助では「一人で何とかする」は美談にはなりません。だからこそ、バディシステムの徹底とトラブル対応訓練を継続し、“独り相撲”を始める前に、必ずバディで収束させる体制を磨いています。水中のトラブルには、隊員一人の判断だけでは解決できないものが少なくありません。常にバディとの連携を前提にリスクを先回りし、複数人で確実に対応することが重要です。現場で必要なのは“勇気”よりも“備え”——その備えを、来たる水難救助の瞬間に迷いなく活かせるよう各種訓練に取り組んでいきます。

過去からの学び

さいごに



大阪府内18消防(局)本部のみなさま

第120回初任教育生260名が大変お世話になりました。

今回は、11消防(局)本部の所属研修の様子をご紹介します。

6月22日から6月24日の3日間にわたり、所属研修を実施しました。各本部での研修内容は、様々でしたが、より実践を意識した訓練を通じて、消防学校で習得した知識、技術を実際の消防業務と結び付け、現場活動に対する理解を深めることができました。

研修実施後、学生からは、実際に働く職員の姿勢や考え方を直接学ぶことができ、「今後の消防学校生活において、さらに努力をしていきたい」という声が多く聞かれました。

各本部での学生の様子を掲載いたしますので、学生たちの奮闘ぶりをご覧ください！

消防本部の組織や業務内容についても学びました



堺市消防局



先輩の教えはしっかりメモします！

大阪市消防局



今日一日の現場の振り返りを行っています。



豊中市消防局



ストレッチャー搬送！

吹田市消防本部



通信指令研修受講中！

大東四條畷消防組合



観察実施中！

東大阪市消防局



救急訓練実施中！

守口市門真市消防組合



放水訓練実施中！

枚方寝屋川消防組合



ホースカー搬送訓練！
消防隊通ります！

茨木市消防本部



ホース延長訓練実施中！

大阪南消防局



幹部の方々との座談会！

泉州南広域消防本部



要救助者搬送中！

来月号は、水難救助訓練の様子をお届けします！



八尾市消防本部

トリアージ訓練を実施

八尾市消防本部は、令和8年3月24日（火）に救急隊員の救護技術向上を目的とした集団災害トリアージ訓練を実施しました。訓練には八尾市立病院の医師、看護師を講師として招き講義を受けた後、実践的な訓練を行いました。

訓練はラリー形式で行い、1次トリアージでは12名の隊員が1症例30秒という制限時間内で実施。2次トリアージでは応急救護所を想定し2人1組のチームが、1症例2分間で再トリアージと処置を行いました。理想とされる時間制限を設けることで、救急隊員の能力差や傷病者の状況が判定にどう影響するかという検証も兼ねて行いました。

訓練後には同病院の副院長、看護師長から講評を受け、現場さながらの緊張感の中で多くの課題を共有しました。八尾市消防本部では、本訓練で得られた知見を今後の救急活動に活かし、さらなる救命技術の向上に努めてまいります。



島本町消防本部

令和8年度島本町総合防災訓練

島本町消防本部は令和8年6月に島本町総合防災訓練に参加しました。大阪府警、陸上自衛隊、大阪ガス、関西電力など、他機関および関係部局を含め、約150名が訓練に参加しました。災害想定として、豪雨災害の発生による警戒・情報収集訓練、地震発生による救助訓練や復旧訓練などを行いました。近年、毎年のように発生している豪雨災害や、発生が近いといわれている南海トラフ地震など、大災害はいつ起きてもおかしくありません。万が一に備え、今一度気を引き締め、他機関との連携を密にし、災害時の苦難を乗り越えていきます。

訓練終了後には、他機関と車両や資機材の情報交換を行ったほか、参加していただいた住民の方々との記念撮影も行い、訓練として固い一面だけではなく、笑顔あふれる一日となりました。

今後もこのような活動を続け、防災意識を多くの方々に広めていきたいと考えます。



「読売テレビ かんさい情報ネット ten. ゲキ追X」取材対応時の様子

堺市消防局

リチウムイオン電池火災の予防啓発

堺市消防局では、近年増加するリチウムイオン電池を原因とした火災への対策として、環境局やごみ収集事業者、メディア等の関係機関と連携し、多角的な予防啓発に取り組みました。

具体的には、ごみ収集車による巡回広報のほか、区交流まつり等での不要なリチウムイオン電池使用製品の回収及び誤廃棄による火災の注意喚起を実施し、その他SNSや各種メディアを活用した情報発信を行いました。

その結果、住民のリチウムイオン電池の危険性や適切な廃棄方法に関する理解が促進されました。特にごみ収集車による巡回広報の実施以降、誤廃棄によるごみ収集車での火災が発生していない等、一定の効果が確認されています。

これらの取組みが評価され、総務省消防庁主催の予防業務優良事例表彰にて優秀賞を受賞しました。今後も関係機関との連携を継続し、リチウムイオン電池火災の防止に取り組んでまいります。



貝塚市消防本部

花火大会の安全を守りました

令和8年6月7日、貝塚市消防本部管内に位置する二色の浜海水浴場において、二色の浜花火大会が開催されました。

警備課は関係機関と共に、運営サイドと警戒体制等について、綿密な事前確認を行いました。予防課では、煙火消費における立入検査を実施し、火薬類の管理状況など法律に規定する技術基準の適合性を確認しました。

今回の花火大会は、管内で初めて実施され多くの人が集まることもあり、消火隊と救急隊の増隊などを行いました。また当日は開催前の会場の安全管理体制の確認をはじめ、有事の際に備え万全の警戒体制をとりました。

引き続き、それぞれの職員が自らの持ち場で責任を果たすと共に、組織一丸となって、市民の安全・安心の確保に取り組み、市民の笑顔を花火のように、おおきく、たくさん咲かせてまいります。

奥野製薬工業 株式会社

自衛消防隊 紹介

自衛消防隊長
村橋 浩一郎

化学薬品を扱う現場では、わずかな油断が重大事故を招きます。従業員と地域住民の安全を最優先に、厳格な訓練と防災意識向上の取り組みを継続してまいります。



奥野製薬工業株式会社は、創業120年を超える研究開発型の化学メーカーです。表面処理や先端材料、ライフソリューション、設備エンジニアリングの4事業を展開し、ものづくりを支える技術を提供されています。

また、日本で初めてベークンパウダーの工業化に成功した企業としても知られ、食品の品質向上や日持ち改善など、食の安全・安心にも貢献されています。

鶴見自衛消防協議会には昭和50年に入会され、自衛消防技術練成会などの当会主催の各種行事及び消防関係諸行事に積極的に参加されており、現在は当会の会



計監査も務められるなど、当会の運営発展に大きく寄与されております。

鶴見消防署としても、常に高い危機管理意識を持って防災意識の向上に取り組まれている姿勢をとって心強く感じております。

女性防火クラブだより

西区

西区女性防火クラブは、12支部で構成され各支部が「自分たちのまちは自分たちで守る」を念頭に、日々地域防災力の向上に取り組む活動を行っています。

5月21日に当クラブ本部役員総会が執り行われたなかで、クラブ員による防災訓練の積極的参加により、防火防災の輪を広げる強い意志を再確認しました。

西区では隔年に西区全域防災訓練を実施しています。さらに大震災時には各地域の災害情報を区役所災害対策本部に集約する、情報集約訓練も実施しています。

また、当クラブは防災研修学習会の一環として、各種防災施設見学会を積極的

に実行しています。防災に関する知識向上を目的とする施設見学や勉強会は、クラブ員にとっては日々の生活から少し離れた交流の場でもあり、笑顔で取り組む防災活動につながっています。今後も積極的に防火防災の勉強会を継続していきます。



Another Voice

- こちらは指令情報センターです - Vol.13 ～集団災害について～

庁舎内に流れる出場指令や警防情報音声など、声を聞いたことはあるけど、どんな業務をしているのかなんとなく知らないしな・・・、あんまり関わりないし興味はあるけど聞きにくいな・・・。

そんな指令情報センター業務に対する疑問や質問などにざっくばらんに回答し、指令情報センターをさらに理解していただくため「Another Voice」を掲載します。

指令情報センターを身近に感じていただき、協力しながらよりよい現場活動に繋がっていきたいと思います。

「指令情報センターの役割」
公式YouTubeにて放映中！



坂井 消平 坂井 消平 坂井 消平 坂井 消平

坂井士長、こんにちは。

先日、イベント会場でけが人が何人も出て、救急車や消防車が出場しているニュースを見ました。119番通報で『多数の負傷者がいる』と分かった時点で、出場車両数は負傷者の数に合わせて指令してるんですか？

こんにちは、消平くん。

通報内容から「短時間に多数のけが人や急病人が発生している」と判断できる場合、消防は通常の救急事案ではなく、いわゆる『集団災害(多数の傷病者が発生している可能性がある事案)』として扱い、出場車両や部隊が多い、手厚い体制の事前計画により、出場指令を出すよ。

なるほど。でも、『集団災害』とひとくくりに言っても、救助が必要な場合と救急搬送が中心の場合がありますよね。すべて同じ指令になりますか？

すべて同じ指令にはならないよ。

実は『集団災害』は、現場で想定される活動内容によって指令の種別に救助系と救急系を用意しているよ。例えば、119番通報の内容が、『複数の車両が絡む交通事故で、車内に人が閉じ込められている』など、多数の傷病者に対して救助が必要となる場合は、『集団救助』として指令するよ。

そうなんですね。

救出を伴う救助活動が中心になるときは『集団救助』、学校やイベント会場などで熱中症などの体調不良者が多数発生している場合は、救助活動が主ではないので、『集団救急』になるということですか？

そのとおり。負傷者の人数だけでなく、発生場所も重要な判断材料だよ。イベント会場や繁華街など不特定多数の人が集まる場所では、体調不良者の増加で状況が拡大する可能性もあるからね。そうした情報が119番通報の時点で確認できた場合は、より多くの部隊を出場させ、現場活動が円滑にすむようにサポートしているよ。

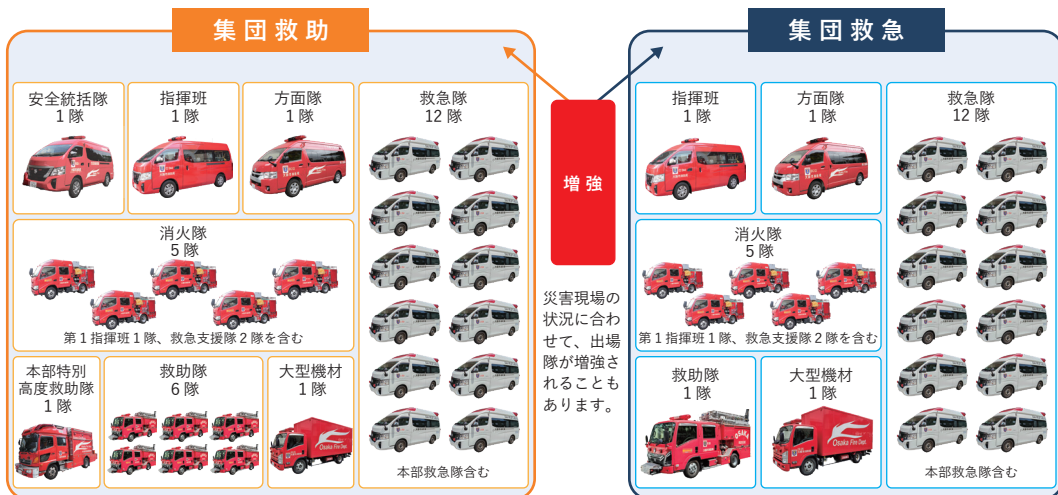
あわせて、先に到着した活動隊には現場の関係する情報を即報してもらったり呼びかけているんだ。さらに、ヘリテレや高所カメラなどの情報も活用して、警防・予防の両方の観点から活動の展開を先読みしているよ。そこから、出場救急車両の進入ルートなどの災害現場の状況を、後から到着する活動隊にも共有して、より円滑な現場活動につなげているんだ。

指令情報センターの役割って、大きいですね。

そうだね。集団災害では、指令情報センターが素早く災害現場の情報を集めて、その状況に合わせた

集団災害出場計画

集団災害が発生した場合は、以下の出場計画に沿って、各隊へ出場が指令されます。
※出場する地域によって、車種や隊種の変更あり。



坂井 指令を活動部隊へ正確に出すことが重要になってくるよ。

そのためには、現場で見たこと、わかったことを、早く、早く、指令情報センターに報告してね。それが、出場隊の安全と円滑な活動につながるよ。